

〔I〕 次の文章をよく読み、下記の設問に答えなさい。

3. ソ連共産党第20回大会

1950年代後半から始まる中ソの対立は、1956年 [ア] の席上で、フルシ
チョフによってスターリン批判がなされたことが契機となった。フルシ
チョフはスターリンが行なった個人崇拜強制や粛清を批判した。これに対して翌年、世界
共産党会議出席のためにソ連モスクワを訪れた毛沢東は「東風は西風を圧す」と演
説し、平和共存路線に舵を切ったフルシチョフに異議を唱えた。毛沢東は反右派
闘争や文化大革命で彼自身への個人崇拜を強め、右派や走資派などとレッテルを
貼った人々を次々に粛清していく。この中ソ対立は、中距離核戦力全廃など協調
路線を打ち出し、「 [イ] 外交」を推し進めたゴルバチョフ書記長が、1989
年に中華人民共和国を訪問するまで続いた。ゴルバチョフ書記長の訪中直後に起
きたのが天安門事件である。

イ、新思考

中華民国期の1918年、孫文はロシア革命の成功を祝す電報をソ連に送った。
1923年孫文はソ連外交官ヨッフエと会談するなど、ソ連の革命勢力が政権を樹
立するまでの方法論に、深い関心をよせていたといわれる。翌1924年の中国国
民党一全大会では、政権党である中国国民党は、中国共産党員が党籍を置いたま
ま加入することを認め、「 [ウ] 」の三政策を採択し、1924年から1927年ま
で中国国民党と中国共産党が協力体制を組むという第1次国共合作が成立した。
しかし、孫文の死後、 [エ] が「四・一二事変」いわゆる上海クーデタを起
して多くの共産党員を殺害し、第1次国共合作は崩壊した。

ウ、連ソ容共、扶助工農

エ、蒋介石

清の乾隆帝は、イリ地方からタリム盆地あたりを支配していたジュンガルを滅
ぼし、東トルキスタンの地を統治下におき、清の最大版図を築いた。こんにちの
中国の国境線をほぼ確定したのは、この時代である。乾隆帝は、西域征服を自ら
祝い、清の威光を知らしめるため、清の宮廷画家であったイタリア出身のイエズ
ス会の宣教師カステリオーネらに戦闘風景を銅板で描かせ、外国に宣伝した。
清はこの地を統治するにあたって、トルコ系の有力者を [オ] と呼んで地方
長官として任用し、間接統治を行なった。

オ、ベグ

トルキスタンにおいてイスラーム化が進展し根付いたのは、10世紀頃と言わ
れている。それまでの中央アジアでは、仏教、マニ教、ゾロアスター教、ネスト
リウス派キリスト教など様々な宗教が信仰されていた。しかし、イラン東部から
ソグディアナを [カ] 朝が支配したことから、徐々にスンニ派イスラームが
広がっていった。 [カ] 朝の首都 [キ] ではイラン系イスラーム文化が
開花し、当時の世界全体から見ても高度な学問がその地で栄えた。たとえば医学
者として『医学典範』を記し、哲学者でもあったイブン=シーナーも、一時期この
王朝で活躍していた。10世紀半ばに成立したトルコ系カラハン朝においては、
トルコ系部族民のイスラームへの集団改宗が行なわれ、トルキスタンのイスラ
ーム化は急速に進んだ。

カ、サーマニ朝

キ、ブハラ

唐の時代は、西は東ローマ、東は日本まで、多くの国や地域との交渉が記録さ
れる。唐は、様々な異民族に対して、離反さえしなければ部族長などに自治を許
すという [ク] 政策によって統治した。 [ク] とは、「馬や牛を繋いで
おく」という意味で、この政策名称は現代で言えばいわゆる「差別語」である。唐
は服属地には都護府を置いて、それぞれの地を統括させた。現在のベトナムには
安南都護府、タリム盆地から西トルキスタンには安西都護府、現在のウルムチに
近い昌吉あたりには北庭都護府が置かれていた。一方で、近接諸国については、
君主に官職を与え、君臣関係を構築する冊封体制をとった。7世紀から10世紀
にかけて、現在の中国東北部沿海州と朝鮮半島北部にあった渤海は、高句麗の遺
民とツングース系諸部族 [ケ] 人を統合した大祚栄によって建国された。渤
海は唐に朝貢し、唐の制度や仏教を積極的に取り入れたが、契丹に滅ぼされた。

ク、羈縻

ケ、靺鞨

公会議で異端とされたキリスト教ネストリウス派は、バルシアを経由して7世
紀頃に中央アジアのソグディアナから東トルキスタンに入り、唐では景教と呼ば
れ大流行した。景教の信者は主に、シルクロードを往来するソグド人などの商人
や、モンゴル人などの遊牧民族であった。13世紀、フランチェスコ会の修道士
 [コ] が、グユク=ハン時代にモンゴルの都カラコルムを訪れた際、ハンの
側近に景教徒がいたと記録している。

コ、プラノ=カゼニ

設問 1 文中の空欄(ア～コ)にもっとも適する語句を記入しなさい。

設問 2 文中の下線部(a～e)に関する下記の質問に答えなさい。

- a 天安門事件を弾圧した鄧小平によって登用され、1993年に国家主席となった人物の名前を漢字で記しなさい。 **江沢民**
- b 日中戦争が勃発すると、中国国民党と中国共産党は第2次国共合作を行なうが、それに先駆けて中国共産党は、1935年国共の内戦停止と人民の抗日救国への協力と組織化を呼びかけ、「抗日救国のため全国同胞に告げる書」を発表した。通称ではこれを、何と呼んでいるかを記しなさい。 **八、一宣言**
- c 東トルキスタン一帯を清は「新しい領土」を意味する言葉で呼ぶようになった。その名称を漢字で記しなさい。 **新疆**
- d 契丹人は10世紀、現在のモンゴル東部から中国東北部にかけて、遼という国を建設した。その国で初代皇帝となった人物の名前を記しなさい。 **耶律阿保機**
- e 唐が滅亡してから宋が建国されるまでの間に、五代といわれる王朝が存在した。その一つである後梁が都を置いた地名を漢字で記しなさい。

開封

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

1869年10月2日、インドのポールバンダルという藩王国で、モーハンダース・カラムチャンド・ガンディーは生まれた。のちに「インド独立の父」とよばれることとなるマハトマ・ガンディーの誕生である。ちなみに「マハトマ」とは「偉大なる魂」という意味である。ガンディーの生家は代々土地の王に仕える宰相であり、身分的には僧侶階層、騎士階層に次ぐインド社会での第3位の階層である **1** とよばれる商人カーストに属していた。インド社会にはもともと4つの身分階層があったが、やがてその枠外に動物の死体処理や清掃などをおこなうもっとも差別された **2** が置かれた。ガンディーは彼らをハリジャン(神の子)とよび、差別撤廃をめざすこととなる。ガンディーは13歳でカストゥルバという同年齢の少女と結婚した。あまりにも若い結婚であるが、当時のインドではごく普通の慣行であった。そして1888年に弁護士になるべくイギリスへと渡る。妻と生後数ヶ月の長男を故郷に残しての旅立ちであった。

イギリスで弁護士資格を取得してインドに帰ったものの、インドでは有為な仕事にめぐりあえなかったガンディーは、1893年、南アフリカのインド系商人からの仕事の依頼で、南アフリカへと渡ることとなる。南アフリカのケープ地方はオランダ系の移民の子孫であるブール人とよばれる人々が住んでいたが、19世紀はじめにイギリス領となると、ブール人たちはイギリスの支配をのがれて北方へと移住し、オレンジ自由国とトランスヴァール共和国を建設した。しかし、この地に豊富なダイヤモンドや金鉱が発見されると、ケープ植民地首相セシル＝ローズはこの地に介入し、やがてイギリスは南アフリカ戦争をひきおこすこととなる。

当時 **3** とよばれるインド移民が、南アフリカには多くいた。自費で渡航した人々や、帝国経済のブームを求めて南アフリカに渡ってきたインド系商人もいたが、移民の多くは、インドからの渡航費等を借り入れ、借金返済の年季があけるまで労働に従事する債務労働者で、鉱山やプランテーションで働く貧しい労働者であった。ガンディーの仕事はインド系商人たちの争いを解決するもので

1. ヴェイシヤ

2. 不可触民

3. 印僑

あったが、彼は到着直後から、強烈な人種差別を経験することとなる。こうした経験から、ガンディーは弁護士としての仕事のかたわら、南アフリカにおけるインド人問題に深くかかわることとなるのである。やがてガンディーはインド人の権利を守るための新しい運動をはじめが、その運動の名前に、真理と堅持を意味する言葉をあわせた **4** という造語をうみだした。非暴力・不服従運動のはじまりである。

4. サティヤーグラハ

さて、インドにおける民族運動の形成、すなわち民族的な自覚をもつ階層の形成は、ちょうどガンディーが弁護士になるべくイギリスへの留学を決意する1880年代頃より顕著となる。当初は親英的なエリート層を中心に、インド人の意見を諮問する機関としてインド国民会議が1885年に結成された。その後、イギリスはヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の分断を目的に、1905年に **5** を発表した。これに対し、国民会議では穏健派にかわってみずから発行する新聞で激しい植民地支配批判を展開したところのある **6** らの急進派が主導権をにぎり、反対運動を展開した。一方、イスラーム教徒は国民会議とは別に、親英的な全インド=ムスリム連盟を1906年に結成した。

南アフリカにおけるインド人に対する差別撤廃運動に奔走すること22年、当地での運動に一定の成果をあげたと考えたガンディーはインドへの帰郷を決意し、1915年1月、ボンベイ港に到着する。第一次世界大戦中、イギリスは民族自決という国際世論の圧力のもとに、インドの自治を約束していた。しかし、1919年のインド統治法は、州行政の一部をインド人にゆだねただけの不十分な内容であり、しかも同時にインド人の反英運動弾圧のための **7** を制定したことに対し、インド各地で抗議集会がひらかれた。こうした植民地政府の圧制に対して、非暴力を掲げて民衆の指導者となったのがガンディーであった。

しかし、運動はガンディーの理想どおりには展開しなかった。非暴力を掲げながら、農民による警察官殺害事件が発生したり、運動方針の対立や宗派対立が生じたりし、民族運動は混乱をきわめた。多民族、多宗教、そしてカーストによる身分階層の分断が、インド社会を特徴づけていた。こうしたなかで、ガンディーは1930年に植民地支配の象徴ともいえる塩への課税に抗議し、「塩の行進」を組織する。その後、イギリスはインドの諸問題を討議するため、1930～32年にか

8. 英印円卓会議

けて、インドの諸勢力を召集した **8** を開催した。ガンディーは第2回会議に国民会議派を代表して参加したが、ひとつのインドを主張するガンディーの意見は孤立し、成果は得られなかった。1931～35年に挙国一致内閣の首相を務めた労働党の **9** 首相の隣に座る白い綿布をまとった小柄なガンディーの姿が印象的である。

9. マドナルト

1935年に成立した新インド統治法により、州政府はインド人に委譲されることとなり、1937年にはこの統治法のもとで州選挙がおこなわれた。国民会議派は多くの州で政権を獲得したが、政治家の未熟さから十分な成果を得ることはできなかった。こうしたなかで1938年と39年に国民会議派議長に選出されながらも会議派から追放された **10** は国外に逃亡し、第二次世界大戦の混乱の中で枢軸国側と連携してインドの独立を獲得しようと試みた。インドが枢軸国側に寝返ることを恐れたイギリス政府は、戦争協力を呼びかけるための懐柔策をインド側に提案した。しかし戦争協力を強いながら独立を承認しないイギリスに対し、1942年8月、ガンディーは「戦いか死か(Do or Die)」というスローガンを掲げ、国民会議派による「インドを立ち去れ(Quit India)」運動を展開する。当然のことながら、運動開始とともにガンディーらの会議派指導者たちは逮捕・投獄されてしまった。

第二次大戦後の1947年、インド独立法の制定により、インドはヒンドゥー教徒を主体とするインド連邦とイスラーム教徒によるパキスタンの2国にわかれて独立した。そして48年、ガンディーは急進的なヒンドゥー教徒によって暗殺される。インド社会は偉大な「お父さん(バプー)」を失ったのである。

10. ファンドラ
=ボース

5. ベンガル
分割令

6. ティラワ

7. ローラット法

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(A～D)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

三十年戦争はドイツを戦場とし、ヨーロッパ各国が参戦した国際宗教戦争となった。戦争は1648年のウェストファリア条約により終結したが、講和条約が大半のヨーロッパ諸国が参加した国際会議でまとめられたことは、ヨーロッパの主権国家体制の確立をしめすものであった。18世紀になると、イギリス・フランスを軸に、多国間での同盟関係と対抗関係により戦争が生ずることが多くなっていった。18世紀には¹スペイン継承戦争、²オーストリア継承戦争、³七年戦争などが生じたが、これらの戦後処理も多国間の講和会議にもとづく条約によって処理された。

しかし、全ヨーロッパを巻き込んだ影響の大きさからいえば、⁴フランス革命とその後の⁵ナポレオンによる一連の戦争は、18世紀の諸戦争とは比較にならないものであり、その戦後処理には多大な労力と駆け引きが必要とされた。その国際会議はウィーンで開催されたが、「会議は踊る、されど進まず」という言葉で表現されるように、多国間での利害調整には、気の遠くなるような時間が必要とされたのであった。

⁶ウィーン会議の結果、当時ヨーロッパ各地にひろまっていた自由主義とナショナリズムの台頭は抑圧され、保守主義が優位になった。列強の協議によって勢力均衡のもとに平和を維持する国際秩序が確立し、それはウィーン体制とよばれた。しかしウィーン体制成立後も、ヨーロッパ諸国で自由主義的改革を求める動きはとまらなかつた。これらの動きはすぐに鎮圧されたものの、これがやがて⁷1848年革命へとつながっていくのである。また、19世紀は自由主義やナショナリズムの台頭とともに、⁸近代諸科学が発展した時代でもあった。

ヨーロッパが革命と反革命、工業化の進展、⁹社会主義思想の高揚などに揺れ動くなか、¹⁰イギリスはその経済的繁栄と強大な海軍力を背景に日の沈まぬ帝国を築きあげ、この突出した影響力のもとに国際的には比較的平和がたもたれた。

問1 下線部1に関連して、17・18世紀に結ばれた条約について述べた次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A スペイン王女がルイ14世妃となることが、ピレネー条約によって定められた。
B ラシュタット条約によって、南ネーデルラントがフランス領となった。
C ユトレヒト条約によって、イギリスはフランスからミノルカ島を得た。
D ユトレヒト条約によって、~~x~~ルイ15世の息子フェリペ5世のスペイン王位継承が認められた。
*→ オーストリア
→ スペイン
○ ルイ14世の孫 ルイ14世の娘、マリア=テレジア
ルイ=ド=フランスの間の子*

問2 下線部2に関連して、オーストリアにかかわる事柄について述べた次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A オーストリアは13世紀にハプスブルク家の所領となった。
B マリア=テレジアの夫フランツ1世は、神聖ローマ皇帝となった。
 C ザクセン選帝侯はオーストリア継承戦争には参加しなかつた。
D アーヘン条約によってマリア=テレジアのハプスブルク家領継承が認められた。

問3 下線部3に関連して、七年戦争の時期に起きた事柄について述べた次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A 七年戦争ではロシアは開戦時にはオーストリア側について戦った。
 B 七年戦争ではフランスはプロイセン側について戦った。
C ほぼ同時期にインドでは英仏間で第3次カーナティック戦争が戦われた。
D 1763年のパリ条約はイギリス・フランス・スペイン間で結ばれた。

問 4 下線部 4 に関連して、フランス革命にかかわる事柄について述べた次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A 立法議会で人権宣言が採択された。
↳ 国民議会
- B 国民公会でユリウス暦にかわって革命暦が採用された。
↳ グレゴリウス暦
- C オーストリアとスペインは共同してルイ 16 世の救援を呼びかけるピルニッツ宣言を発表した。
↳ プロセン
- D 国民公会のもとで、国民の兵役を義務化した徴兵制が実施された。

問 5 下線部 5 に関連して、ナポレオンにかかわる事柄について述べた次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A プロイセンとアミアンの和約とよばれる講和条約を結んだ。
↳ イギリス
- B フランス・スペイン連合艦隊はイギリスとトラファルガーの海戦を戦ったが大敗した。
- C アウステルリッツの三帝会戦に勝利し、その講和条約としてティルジツト条約を結んだ。
↑ イエナの戦いの講和条約
- D ワーテルローの戦いでイギリス・ロシア・プロイセン連合軍に破れ、セントヘレナ島へ流された。

問 6 下線部 6 に関連して、ウィーン議定書で認められた事柄として誤っているものを次のなかから選びなさい。

- A ワルシャワ大公国の建国が認められた。
— ティルジツト条約によつて
- B イギリスはマルタ島の領有を認められた。
- C オーストリアはロンバルディア・ヴェネツィアの領有を認められた。
- D プロイセンはラインラントの領有を認められた。

問 7 下線部 7 に関連して、1848 年革命にかかわる事柄について述べた次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A スラヴ民族会議が開催された。
- B ウィーンで二月革命がおこった。
↳ 三月革命
- C イタリアではカルボナリの蜂起がおこった。*1820*
- D ドイツでは自由主義者らがブルシェンシャフトに結集した。*1815*

問 8 下線部 8 に関連して、エネルギー保存の法則を提唱した人物を次のなかから選びなさい。

- A サヴィニー
- B ボイル
- C マイヤー
- D リービヒ

問 9 下線部 9 に関連して、19 世紀の社会主義思想に関する次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

- A ルイ＝ブランは国立作業場の設置を提案した。
- B プルードンは無政府主義運動に影響をあたえた。
- C オーウェンは実験的な共同社会ニューハーモニーの設立を試みた。
- D サン＝シモンは生産と消費を共同でおこなう団体「ファランジュ」の設立を説いた。
↳ フーリエ

問 10 下線部 10 に関連して、19 世紀イギリスの諸改革にかかわる事柄について述べた次の文章のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A 議会法の制定により、腐敗選挙区が廃止された。
↳ 第 1 回選挙法改正
- B 疾病保険と失業保険を内容とする、国民保険法が制定された。*(1911年)*
- C 教育法の制定により、初等教育の公的整備がはじまった。
- D 工場法の制定により、労働組合の結成が許可された。
↳ 1871. 労働組合法

[IV] 次の文章をよく読み、下線(1~10)に関連するそれぞれの問(1~10)にもっとも適するもの(1~4)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

ビザンツ帝国は、西洋世界に非常に大きな影響を及ぼした。その影響はビザンツ帝国が存在した中世にとどまらず、現代にまで及んでいる。

その影響の大きさは、6世紀に集大成されたローマ法を考えればわかるだろう。この法は、12世紀以降西欧の法の基礎となり、近世においても法学の基礎であり続けたのである。

ローマ法以外にも、ビザンツ帝国で創られた制度、文化、慣習は、広く地中海世界およびその周辺地域に伝播した。それは西欧だけではなく、アルメニアやグルジア(ジョージア)のような東地中海地域やアラブ世界にまで至る。西欧でビザンツ人が長い間居住したイタリア南部地域やシチリアでは、1970年代までギリシア語が日常的に話される村落があったという。

ビザンツの及ぼした影響のなかでも特に重要なのは、ローマ法を除けば、ギリシア文化とキリスト教であろう。ビザンツ帝国は、自らをギリシア語で「ローマ人の」帝国と呼びながら、古代のギリシア文化、ローマ帝国の伝統、そしてキリスト教を基礎とする文化を創り上げた。それは同時代の西欧世界にはなかった、文化的に多元的で、異教徒の移住者にも比較的寛容な大帝国であった。12世紀半ばの帝国には、ユダヤ教徒、パチエネグ人のような周辺の遊牧民、ロマといった人々も受け入れられ、共同体を作っていたのである。

問 1 下線部 1 に関連して、12世紀の西欧の学芸について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 アルクインが、文芸復興に中心的な役割を果たした。(8c)
カロリ=7=ルネサ=2の中心人物
- 2 トマス=アクィナスが、『神学大全』を書いた。(13c)
- 3 ロジャー=ベーコンが、実験と観察を重視する経験論への思潮を築いた。(13c)
- 4 アベラールが、普遍論争において唯名論を唱えた。

問 2 下線部 2 に関連して、アルメニアについて述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 アルメニア教会は、単性論を受け入れた。強い言が5行=から独立した。
- 2 トルコマンチャーイ条約で、アルメニアはロシアから独立した。X
- 3 アルメニアは、アレクサンドロス大王の帝国には含まれなかった。X
- 4 アルメニアは、ロシア連邦を中心とした独立国家共同体(C I S)には含まれなかった。X

問 3 下線部 3 に関連して、古代の東地中海世界の諸民族について述べた文として、誤っているものを選びなさい

- 1 アラム人は、その交易活動によってアラム語をオリエントに広めた。
- 2 フェニキア人は、海港都市国家ティルスを建設した。
- 3 「海の民」と呼ばれる人々は、ヒッタイトによって滅亡させられたとされている。↑ 逆 ↑
- 4 イスラエル人は、モーセに率いられて、「出エジプト」を行なったという。

問 4 下線部 4 に関連して、8-9世紀のイスラーム世界について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 後ウマイヤ朝のアブド=アッラフマーン3世が、コルドバの大モスクを建設させた。アブド=アッラフマーン=1世
- 2 トルコ系軍人イブン=トゥールーンが、エジプトにトゥールーン朝を建てた。グラナダはイスラ朝の都
- 3 グラナダが、後ウマイヤ朝の都とされた。コルドバ
- 4 カイロが、ファーティマ朝の新首都となった。(10c)

問 5 下線部5に関連して、イタリアの統一に関して述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 中部イタリアの諸国は、住民投票でサルデーニャ王国への編入を決定した。
- 2 ヴェネツィアは、プロイセン=オーストリア戦争の講和条約でイタリア王国に割譲された。
- 3 プロンビエールの密約によって、トリエステがフランスに割譲された。
- 4 イタリア統一を宣言したサルデーニャ王国の首相は、カヴールである。

問 6 下線部6に関連して、シチリアについて述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 イタリア統一の際、シチリアは、マツイーニ率いる千人隊によって制圧された。
- 2 シチリアは1943年に、イタリア本土上陸の前段階として連合軍によって制圧された。
- 3 シチリアはローマ帝国初の属州であった。
- 4 両シチリア王国は、神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒ2世が建国した。

問 7 下線部7に関連して、古代ローマ帝国におけるキリスト教について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 エフェソスの公会議でネストリウスが異端とされた。
- 2 カトリックの教義では聖霊の存在が認められている。
- 3 エウセビオスが『神の国』を執筆した。
- 4 アタナシウス派が正統教義とされた。

『教会史』『年代記』

問 8 下線部8について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 アリストテレスが代表作『国家』を書いた。
- 2 トウキディデスがペルシア戦争を記述した『歴史』を書いた。
- 3 エピクロスはストア派の創始者と言われる。
- 4 ヒッポクラテスが四体液説をとらえた。

ペロポネッス戦争を題材として『歴史』を書いたのはヘロドトス。

問 9 下線部9に関連して、古代ローマの文人について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 ホラティウスが『アエネイス』を執筆した。
- 2 キケロが『国家論』を執筆した。
- 3 リウィウスが『ローマ建国史』を執筆した
- 4 ポリビオスが『歴史』を執筆した。

問10 下線部10について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 中世ヨーロッパでは、ユダヤ人は迫害されなかった。
- 2 18世紀後半に、ユダヤ人を差別する反セム主義が誕生した。
- 3 ナチスの強制収容所が建てられたアウシュヴィッツは、ポーランドにある。
- 4 ユダヤ人の集合居住区であるゲットーは、古代ローマ帝国に起源をもつ。

反ユダヤ主義にほぼ同義
19世紀
中世ヨーロッパ
(1555年、教皇パウルス4世)

[V] 国土回復運動について、3行以内で説明しなさい。

別名レコ=キスタと言う。イスラム支配に対する、イベリア半島のキリスト教徒による反撃の運動。8世紀のイスラム勢力による侵入以来始まり、1492年、ナスル朝の首都グラナダを陥落させ、完了した。(95字)

